city & life

都市のしくみとくらし

no.71
spring
2004

特集 都市と観光、新たな視点

city&life no.71 spring 2004

表紙・裏表紙―「雪あかりの路」開催期の小樽にて
(関連記事:p16)photo:伊奈英次

特集　都市と観光、新たな視点

contents

ルポ | 果たして都市は観光資源となりうるのか まちづくりと観光 2

ケーススタディ | まちづくりは観光地づくりか 8

昭和30年代の「どこにでもある町」が観光客で大賑わい?! | 大分県豊後高田市
そのままの"砂浜"や"ラッキョウ畑"が観光資源に!? | 高知県幡多郡大方町
「運河論争」以降に華開いた「観光地・小樽」に「地域」とつながる新たな兆し | 北海道小樽市

ご近所ツアー | 「谷中」町歩きの愉しみ 21

鼎談 | 谷中の「観光」について、ひとつじっくり考えてみようか 25
日端康雄×片山和俊×椎原晶子

ルポ | 東京に「アミューズメント温泉」が増殖している理由(わけ) 29

データベース消費時代の「観光」を考える。| 秋山綾 34

エッセイ | 旅のあたらしい足音 群島で学び逸れながら | 今福龍太 38

information・back number 40

都市と観光、新たな視点

特集

どうやら近年、いわゆる「観光地」という場所は旗色が悪い。ことにバブル経済絶頂期、観光客のみを目当てとしたリゾートホテルやアミューズメント・スポットを次々新設し、外部経済を引き込もうとした揚げ句に当てが外れ、閑古鳥の啼く、借金の残った、惨憺たるあり様を呈する場所があちこちにできてしまって、以来、「観光地」という言葉にはなにか悲壮な雰囲気が伴うようになってしまった。そうした中「観光地」とは異なる概念を持つものとして「都市観光」という言葉がクローズアップされてきた。そもそも海外の都市に見られるように、「観光」にかなう「都市」とは、その土地固有の歴史や文化、それを反映した町並みや商業施設が地元の人々の暮らしと共に、いきいきと育まれている場所である。そんな、都市が固有に持つ「資源」を活かした「都市観光が可能なまちづくり」が、全国各地で模索され始めているのだ。旧来の「観光地」から脱却した観光と都市の関係を、さまざまな事例を見ながら考える。

photo:**伊奈英次**「小樽運河・中央橋詰の巨大雪だるまをくぐる観光客」(関連記事:p16)